

船員確保対策事業の海事教室を今年度も実施！

鹿児島内航海運組合は1月18日(金)に、平成30年度船員対策事業として九州運輸局鹿児島運輸支局と連携し、枕崎市にある鹿児島県立鹿児島水産高等学校の海洋科(海洋技術コース・機関コース)1年生21名(うち女生徒1名)と教諭2名を対象に、海事教室を実施しました。

なお、講師には九州運輸局職員と当組合会員会社で、大阪～鹿児島～沖縄航路に5,848トンの大型RORO船「うりずん21」(H30年5月就航)をはじめとして、福岡～鹿児島～沖縄航路等に多数就航している鹿児島荷役海陸運輸株にお願いしました。

【実施内容】

まず、第一部の「内航海運」と「船員」の基礎知識では、運輸支局船員担当の岩崎首席が、船員についてと題し、船員職業の基礎知己として、船員の仕事内容や一日のスケジュール・労働条件(給与等)・海技免状の取得当について説明しました。

次に、第二部の「内航海運」と「船員」の現場を知ろうでは、鹿児島荷役海陸運輸株海運事業部の坂口課長が、会社概要として自社船6隻と用船4隻の計10隻が就航(船員は83名)しており、関連事業の港湾荷役や陸上輸送等(社員275名)も行っていること、また、同社の取り組みとして、Mゼロ化やWi-Fi全船導入等の船員の処遇改善に積極的に取り組んでいることの説明があり、その後、鹿児島水産高校OBで、同社の「うりずん」に乗船している永山船長から、実際の現場の船員の仕事内容として、各部の役割や船内での過ごし方等を説明された。

なお、同社は積極的に若年内航船員確保に取り組んでおり、鹿児島水産高校の卒業生も多数いることも紹介された。

(配布資料)

- ・海のしごと
- ・内航海運の活動(平成30年度版)
- ・内航海運～地球にやさしく日本を運ぶ
- ・What is 内航海運?
- ・これが内航海運だ!(マンガ)
- ・クリアファイル

※午前は、独立行政法人海技教育機構の協力により、1月15日に鹿児島港に入港した「銀河丸」の見学会が実施され、これには栽培工学コースの生徒を含めた36名が参加しました。

鹿児島内航海運組合は、内航海運の課題である若年船員確保に向けて、今後も、鹿児島運輸支局と連携しながら、このような取り組みを継続していきたいと考えています。



